

## 浜の活力再生プラン

## 1 地域水産業再生委員会

組織名	勝山市水産業再生委員会
代表者名	丸山 忠男

再生委員会の 構成員	勝山市漁業協同組合、勝山淡水漁業生産組合、勝山市
オブザーバー	福井県

※再生委員会規約及び推進体制の分かる資料を添付すること。

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 九頭竜川中流域（福井県勝山市）</li> <li>○ 内水面漁業（アユ、アマゴ、ヤマメ（サクラマス）、イワナ）</li> <li>○ 漁業者数 136名 <ul style="list-style-type: none"> <li>内訳 勝山市漁業協同組合 129名</li> <li>勝山淡水漁業生産組合 7名</li> </ul> </li> </ul>
-------------------	--

※策定時点で対象となる漁業者数も記載すること。

## 2 地域の現状

## (1) 関連する水産業を取り巻く現状等

九頭竜川は、岐阜県と福井県の県境を水源とし、勝山盆地を還流して日本海に注ぐ流域面積2,930km<sup>2</sup>の豊かな水量と美しい清流に恵まれた北陸でも有数の大河川である。中流域は自然豊かで、魚類も15科54種が生息し非常に豊かな魚類相となっているが河川敷は、スポーツ、リクリエーションの場として利用され多くの市民が利用し親しんでいる。また、アユ、ヤマメ（サクラマス）釣りの名所として知られ、毎年県内はもとより関西・中京方面からからの多くの釣り人で賑わっている。九頭竜川における平成26年度の勝山市漁業協同組合（以下、「漁協」とする。）組合員による漁獲量はアユ、ヤマメ等を含めて約1.6t、漁獲金額は4,700千円余りであった。

漁協では遊漁者数の増加及び漁業資源の向上を目指して、年間5.0t以上の稚アユを放流しているが、放流アユ種苗の95%以上を県外産に依存しているのが現状である。また、かつては放流アユ種苗の多くは湖産系であったが、再生産への寄与等の面から海産系へと転換してきており、さらなる海産系稚アユの購入は、県外に依存することとなるため単価が高くなるばかりか、全国的な海産系稚アユの需要増により入手が困難であるという課題がある。

一方、遊漁者数は、年間5,000人から6,000人前後で推移しており、近年は頭打ちの状況である。その要因として、レジャーの多様化やアユ釣り技術の難しさが考えられ、若者や女性遊漁者の確保は難しく、このままでは漁協経営が縮小するばかりでなく、地域の賑わいも低下することとな

り、漁業者はもとより地域からも九頭竜ブランドの確立が望まれている。

養殖漁業においては、昭和48年よりアマゴ、イワナ等の種苗、成魚の生産が行われてきている。以前は、アマゴの稚魚の県外出荷等を行っていたが、稚魚の需要減（アマゴの放流減少）等により、現在は県外出荷を行っておらず、関西圏等へのマスコミを通じたPR、甘露煮や燻製等の加工品販売を行う等の努力を重ねているものの、以前と比較して売り上げ増にはつながっていない。しかしながら、福井県内における、イワナ放流用種苗生産施設の平成28年度での廃止、ヤマメ（サクラマス）稚魚の生産増要望及び福井県の事業であるニジマス（トラウトサーモン）の福井県内一貫生産を目指しての稚魚生産要望等、福井県内における種苗生産施設の必要性が高まってきている。また、遺伝的多様性の維持の面からもヤマメ（サクラマス）、イワナにおける福井県固有種の稚魚生産も併せて求められており、九頭竜ブランドの確立とともに今後の課題として考えられている。

## （2）その他の関連する現状等

九頭竜川流域の勝山市では、市外からのより一層の観光客誘致及び市内の内水面漁業を含む産業振興のために、中部縦貫道路インターチェンジ付近の勝山市荒土町松ヶ崎地区に「道の駅」を整備する予定となっている。今後は、漁協を始め、市内の商工会、農協、観光協会等の各種団体を含む勝山市「道の駅」基本計画検討会議を発足させ、九頭竜川のアユ、ヤマメ（サクラマス）、イワナ等についても地域の特産品として取り扱うとともに内水面漁業に関する直接販売施設の設置等を併せて検討することとなっている。また、「勝山市道の駅建設推進会議」と連携し、九頭竜川産のアユ、ヤマメ（サクラマス）、イワナとしてブランド力を高め販路拡大に努めていくとともに、これまでも生産を行っているアマゴの加工品等の販売についても継続して実施していくこととしている。

また、平成26年度からは、漁協がJFT（特定非営利活動法人 日本釣り技術振興評議会）と協力し全日本アユ王座決定戦等のアユ釣り全国大会を開催する等のアユ釣り普及活動及び九頭竜川のPR活動を実施し、より一層のPR活動を行っている。

一方、流域では「勝山九頭竜環境ネットワーク」等の市民団体が河川清掃、生息魚種調査などの活動を行っている。

このように、周辺地域全体で九頭竜川のアユ、ヤマメ（サクラマス）、イワナ等についての関心が日増しに高まってきており、地域の活性化に欠かせないものとなってきている。

## 3 活性化の取組方針

### （1）基本方針

低迷している九頭竜川中流部の水産業の振興を図り、水産業の持続的な発展及び活力ある地域の発展に寄与するため、下記の基本方針により施策を実行し、漁業者の所得向上と地域の活性化を図る。

#### （1）漁業収入向上のための施策

##### ① 養殖用種苗生産施設の整備と放流

勝山淡水漁業生産組合は、平成28年度にアマゴ、ヤマメ（サクラマス）、ニジマス、イワナの養殖用種苗の生産施設を整備（平成28年度生産予定：アマゴ稚魚9.5万尾、ヤマメ（サクラマス）稚魚1.3万尾育成）することで、福井県内における現状の種苗生産体制（イワナ稚魚生産施設は、平成28年度をもって廃業、ニジマス稚魚については、全量を愛知県から購入）の維持・拡大を図るとともに、九頭竜川産（支川含む）の各魚種の養殖魚出荷体制及び九頭竜川産ヤマメ（サクラマス）、ニジマス、イワナの種苗放流量を増大等させることにより福井県由来の地先資源を増大させ、漁業者の所得向上を図ることとする。また、九頭竜川由来のアユ、ヤマメ（サクラマス）、イワナを増加させることで、地域ブランドを確立させ、さらなる販路拡大を図り所得の向上につなげる。

#### ② 河川での再生産増大への取組み

漁業者は、アユ、ヤマメ（サクラマス）等の産卵床として可能性のある河床を掻き起こし、はまり石から浮石とする産卵床を造成することによって円滑な再生産を促し、翌年度の天然アユ等の遡上増大及び産卵可能箇所を増大につなげることで、収入向上を図るよう検討を行う。具体的箇所は河床礫石の状況を調査し実施する。

併せて、アユ、ヤマメ（サクラマス）の遡上量等資源の増大に向けて魚道の整備、産卵間近の親魚放流などの他の施策についても連携することで相乗効果の発揮に努める。

ヤマメ（サクラマス）、イワナについては九頭竜川水系の環境に適応した親魚（固有種）由来の種苗を放流することにより生残率を上げ、河川環境の改善、人工産卵場造成などと合わせて、自然再生産の増大を図る。

#### ③ 遊漁者の増大

漁協は、遊漁者を増やすための広報戦略の樹立とその実践により、九頭竜川及びその支流での自然体験及び九頭竜川産アユ、ヤマメ（サクラマス）釣りの楽しさ、福井県固有種苗の放流（大型ヤマメ（サクラマス）、イワナ含む）等を広く訴え、遊漁者の増加につなげる。このため、漁協は、マスコミに取材等を要請する中で各種釣り大会、夏休み期間を中心に釣り教室等のイベントを開催し、その模様や結果などについて漁協のホームページに掲載するなどし、遊漁者の増大を図る。さらに、これまでも実施している女性・子どもの遊漁券無料施策と併せて家族ぐるみの釣り等のPRを実施し、遊漁者の増大を図る。

また、漁業者及び市民団体等は、釣りシーズン前に堤防から釣り場までのアクセス道路や駐車場の整備、水辺の樹木伐採、ゴミ拾い等の河川美化活動等による釣り場環境の整備を行う。このことにより、漁業の効率性・生産性が向上し、また、イメージアップによる遊漁者数の増大にもつなげる。

#### ④ 消費拡大

漁業者は、周辺自治体等と連携してアユ、ヤマメ（サクラマス）、イワナの商品開発及びブランド化による販路拡大や「道の駅」への直接販売店舗の整備による鮮魚及び加工品の販売を検討し収益性を向上させる。このため、漁協や産地協議会参加の市民団体等と連携して、

アユ、ヤマメ（サクラマス）、イワナを使った新メニューをそれぞれのホームページで紹介するとともに、料理教室・コンクール等を開催する。また、学校給食に使ってもらうため、近隣地区の小中学校に働きかける。

さらに、各所で行われるフェア等に出店し、九頭竜川産アユの美味しさをPRし、消費拡大、遊漁者の増大につなげる。また、漁協や産地協議会参加の市民団体等と連携して、九頭竜川のアユ（サクラマス）、福井県固有種のイワナを使った料理等を、福井県が企画開催しているデパートでの特産品フェアや東京にある福井県アンテナショップでの販売、また地元市の情報発信拠点で紹介し、知名度を高め消費拡大を図る。

#### ⑤ 担い手の育成

活力ある漁業を取り戻すためには、若い漁業者の就労が必要である。このため、漁協等は、漁業の魅力を知ってもらうようホームページへの掲載やチラシの配布等により、若い漁業者を積極的に勧誘する。

特に有望な担い手となる可能性の高い若年層及び女性には自然体験の中での釣りの楽しさ感じてもらうために、釣り教室及び稚魚放流体験を実施する。特に最近見られるようになった女性の釣り客は担い手として有望であり、また、若年層の釣り客についても将来の担い手の育成という長期的な視点から積極的に育成していく。

#### ⑥ 集荷・出荷システムの検討

現在は漁獲したアユ、ヤマメ（サクラマス）の出荷は漁業者個人が個別に行っているが、価格もまちまちで、また漁獲量も日々変動するなどし、必ずしも収入が安定しているとはいえない。このため、漁協において集荷・出荷を集約し、安定的に販売することにより、効率的により適正な価格で販売できる仕組みを検討する。このことにより、漁業者の安定的な収益確保を目指す。

### (2) 漁業コスト削減のための施策

#### ① 養殖用種苗生産施設等によるコスト削減

漁協が行っているアユの放流事業については、これまで湖産アユの放流割合が高かったが、より生残率の高い海産アユへの移行を進めることで、漁獲高の向上及び放流量の維持又は削減等によるコスト削減を図る。また、ヤマメ（サクラマス）、イワナについては、勝山淡水漁業生産組合所有の養殖用種苗生産施設で生産された九頭竜川産の稚魚及び成魚を購入・放流することで、生残率の向上を図る。

#### ② 養殖用種苗生産技術の研修・習得

種苗生産技術は、対象が生き物であることから、その管理方法によって稚魚の死滅量、成長等が大きく左右される。このため、成長段階に応じた育成技術（水槽の水管理、餌管理、光の管理、早期の病気発見と対策など）の技術習得により死滅率の減少が図られ、効率的・経済的な稚魚生産が可能となり、種苗生産施設の経費節減につなげることができる。

以上のことから、勝山淡水漁業生産組合は、福井県内水面総合センターなどから、実技研修等を受け、飼育員のスキルアップを図る。

③ 放流可能量（九頭竜川における各魚種の棲息可能量）の調査

漁協等は、水棲昆虫棲息量・魚種等の調査を実施し、適正な放流可能量の把握に努めることとする。河川環境を無視した過剰な放流は、放流経費の増加を招くとともに河川環境の悪化及び生態系への悪影響をもたらすことから、福井県内水面総合センター、福井県立大学、民間団体等とも連携し、各種調査を実施する。

(2) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

福井県内水面漁業調整規則、勝山市漁業協同組合漁業権行使規則及び遊漁規則により

- アユについては、12月1日～6月中旬までは全面禁漁とし、漁具・漁法についても規制
  - ヤマメ（サクラマス）、イワナについては本川支川別、また区間別にきめ細かく禁漁を定め、漁具・漁法についても規制
- 等々

これらの規則により、水産資源の保護を図りつつ安定的な漁業活動を行っている。

(3) 具体的な取組内容（毎年ごとに数値目標とともに記載）

1年目（平成28年度）

漁業収入向上のための取組	<p>① 養殖用種苗生産施設の整備</p> <p>勝山淡水漁業生産組合は、福井県勝山市野向町横倉地先にアマゴ、ヤマメ（サクラマス）、ニジマス、イワナの養殖用種苗の生産施設（孵化場）を整備し、以下の種苗の生産を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・アマゴ : 95,000尾（前年比15,000尾増）</li><li>・ヤマメ（サクラマス） : 13,000尾（前年比8,000尾増）</li></ul> <p>また、九頭竜川産ヤマメ（サクラマス）の生産量増大、ニジマス及びイワナの生産開始に向けて孵化技術、魚病被害対策等の新たな技術の導入を図る。</p> <p>② 河川での再生産増大への取組み</p> <p>漁業者は、アユ、ヤマメ（サクラマス）等の産卵床として可能性のある河床を掻き起こし、はまり石から浮石とする産卵床を造成することによって円滑な再生産を促し、翌年度の天然アユ等の遡上増大及び産卵可能箇所を増大を図る。具体的箇所は河床礫石の状況を調査し実施する。</p> <p>併せて、アユ、ヤマメ（サクラマス）等の遡上量等資源の増大に向けて魚道の整備などの他の施策についても連携することで相乗効果の発揮に努めるとともに、水産総合研究センター増養殖研究所、滋賀県水産試験場等から講師を</p>
--------------	---

	<p>招いての研修・講習会を実施し、魚の生態・保護方法等の知識を得る。</p> <p>③ 遊漁者の増大</p> <p>漁協は、遊漁者を増やすための広報戦略の樹立とその実践により、アユ、ヤマメ（サクラマス）、イワナ等を対象とした釣りの楽しさ等を広くPRし、遊漁者の増加につなげるための検討を行う。</p> <p>このため漁協は、マスコミに取材等を要請する中で、釣具メーカー等との共催で全国釣り大会を継続して開催し、その結果についてメーカーの情報誌や漁協のホームページに掲載して情報発信するとともに、九頭竜川での釣りの楽しさや醍醐味を広く宣伝し、遊漁者の増大を図る。</p> <p>また、アユ釣り解禁前に漁業者や市民団体によるゴミ拾い等の漁場環境整備活動を各1回行い、イメージアップを図ることにより、遊漁者数の増大及び漁場環境向上による漁獲量の増加につなげる。</p> <p>④ 消費拡大</p> <p>漁業者は、勝山市「道の駅」基本計画検討会議（事務局：勝山市）や勝山九頭竜環境ネットワーク等の民間事業者等と連携し、アユ、ヤマメ（サクラマス）、イワナの生鮮販売、加工品開発等による販路拡大及び6次産業化等を検討する。併せて、平成32年度に開業予定の『道の駅』への直売所設置等による所得向上対策について民間事業者等と連携して検討を行うとともに、消費動向・販路等のマーケティング調査を実施する。また、九頭竜川の鮎についてブランド化の一助として商標権登録を実施する。</p> <p>⑤ 担い手の育成</p> <p>活力ある漁業を取り戻すためには、若い新規就業者の新たな着業が必要であることから、漁協等は、漁業の魅力を知ってもらうため、若年層及び女性を対象に釣り教室、稚魚放流体験及び魚との触れあい事業等を実施する。</p> <p>⑥ 集荷・出荷システムの検討</p> <p>現在、漁獲物の出荷は、個々の漁業者が個別に行っており、まとまった数量の確保及び安定的な供給が困難な状況である。そのため、漁協は、漁業者等からアユ等を一括して買い入れそれらを一元的に出荷するための効率的な集荷・出荷システムを構築するための検討を開始する。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>① 養殖用種苗生産施設等によるコスト縮減</p> <p>漁協は、ヤマメ（サクラマス）・イワナについて、勝山淡水漁業生産組合所有の養殖用種苗生産施設で生産された稚魚及び成魚を購入・放流することで、輸送コストの削減による漁業コスト削減を図る。</p>

	<p>② 養殖用種苗生産技術の研修・習得</p> <p>養殖用種苗生産は、その技術レベルにより効率性・経済性が大きく左右される。このことから、勝山淡水漁業生産組合は、福井県内水面総合センターなどの実技研修等を受け、養殖用種苗生産技術のスキルアップを図り種苗生産の効率化及び確実性を高める。</p> <p>③ 放流可能量、福井県固有種イワナ等の調査</p> <p>河川環境を無視した過剰な放流は、放流経費の増加を招くとともに河川環境の悪化をもたらすことから、漁協は、福井県内水面総合センター、福井県立大学、民間団体等と連携し、水棲昆虫棲息量や各魚種等の生息状況等の調査を実施し、適正な放流可能量の把握に努める。</p> <p>併せて、ヤマメ（サクラマス）の産卵量（産卵箇所数）等の調査及びイワナの捕獲調査を実施し、DNA鑑定等を用いて福井県固有種のイワナ生息状況を明らかにし、今後の放流用種苗生産及び固有種の保護につなげる。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>水産業競争力強化緊急施設整備事業</p>

2年目（平成29年度）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>① 養殖用種苗生産施設の活用</p> <p>勝山淡水漁業生産組合は、前年度に整備した養殖用種苗の生産施設（孵化場）において、以下の種苗生産を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アマゴ : 95,000尾（前年同数）</li> <li>・ヤマメ（サクラマス） : 14,000尾（前年比 1,000尾増）</li> <li>・ニジマス : 10,000尾（前年比10,000尾増）</li> <li>・イワナ : 48,000尾（前年比48,000尾増）</li> </ul> <p>また、九頭竜川産ヤマメ（サクラマス）、ニジマス及びイワナの更なる生産量増大に向けた孵化技術、魚病被害対策等の新たな技術の導入を引き続き図る。</p> <p>② 河川での再生産増大への取組み</p> <p>漁業者は、アユ、ヤマメ（サクラマス）等の産卵床として可能性のある河床を掻き起こし、はまり石から浮石とする産卵床を造成することによって円滑な再生産を促し、翌年度の天然アユ等の遡上増大及び産卵可能箇所の増大を図る。具体的箇所は河床礫石の状況を調査し実施する。</p> <p>併せて、アユ、ヤマメ（サクラマス）等の遡上量等資源の増大に向けて魚道の整備などの他の施策についても連携することで相乗効果の発揮に努めるとともに、水産総合研究センター増養殖研究所、滋賀県水産試験場等から講師を招いての研修・講習会を実施し、魚の生態・保護方法等の知識を得る。</p>
---------------------	--

③ 遊漁者の増大

漁協は、遊漁者を増やすための広報戦略の樹立とその実践により、アユ、ヤマメ（サクラマス）、イワナ等を対象とした釣りの楽しさ等を広くPRし、遊漁者の増加につなげるための検討を行う。

このため漁協は、マスコミに取材等を要請する中で、釣具メーカー等との共催で全国釣り大会を継続して開催し情報発信するとともに、その結果についてもメーカーの情報誌や漁協のホームページに掲載し、九頭竜川での釣りの楽しさや醍醐味を広く宣伝し、遊漁者の増大を図る。

具体的には、今年度は、

- ・全国の主要河川の広報の実態調査
- ・九頭竜川漁業の実態調査及び写真記録

を行い、広報のあり方、方向性を検討する。

併せて、アユ釣り解禁前に漁業者や市民団体によるゴミ拾い等の漁場環境整備活動を各1回行い、イメージアップによる遊漁者数の増大・漁場環境向上による漁獲量の増加につなげる。

④ 消費拡大

漁業者は、勝山市「道の駅」基本計画検討会議（事務局：勝山市）や勝山九頭竜環境ネットワーク等の民間事業者等と連携し、アユ、ヤマメ（サクラマス）、イワナの生鮮販売・加工品開発等による販路拡大・6次産業化等を引き続き検討する。

また、学校給食に使ってもらうため、まずは近隣地区の小中学校に働きかけるとともに、勝山市主催のイベント等に出店し九頭竜川産アユの美味しさをPRし、消費拡大、遊漁者の増大を図る中で収入向上につなげる。併せて、平成32年度に開業予定である『道の駅』における直売所設置等による所得向上対策について民間事業者等と連携して具体的な検討を行う。

⑤ 担い手の育成

活力ある漁業を取り戻すためには、若い新規就業者の新たな着業が必要であることから、漁協等は、漁業の魅力を知ってもらうため、若年層及び女性を対象に釣り教室、稚魚放流体験及び魚との触れあい事業等を実施する。

⑥ 集出荷・システムの検討

漁協は、漁獲物の安定的な供給を行うために、漁協が漁業者等からアユ等を買い入れ、一元的に出荷する効率的な集荷・出荷システムの方針の具体的な検



	討を行う。
漁業コスト削減のための取組	<p>① 養殖用種苗生産施設等によるコスト縮減</p> <p>漁協は、ヤマメ（サクラマス）、イワナについて、勝山淡水漁業生産組合所有の養殖用種苗生産施設で生産された稚魚及び成魚を購入・放流することで、輸送コストの削減による漁業コスト削減を図る。</p> <p>② 養殖用種苗生産技術の研修・習得</p> <p>養殖用種苗生産は、その技術レベルにより効率性・経済性が大きく左右される。このことから、勝山淡水漁業生産組合は、引き続き福井県内水面総合センターなどの実技研修等を受け、養殖用種苗生産技術のスキルアップを図り種苗生産の効率化及び確実性を高める。</p> <p>③ 放流可能量、福井県固有種イワナ等の調査</p> <p>河川環境を無視した過剰な放流は、放流経費の増加を招くとともに河川環境の悪化をもたらすことから、漁協は、福井県内水面総合センター、福井県立大学、民間団体等と連携し、水棲昆虫棲息量や各魚種等の生息状況等の調査を実施し、適正な放流可能量の把握に努める。併せて、ヤマメ（サクラマス）の産卵量（産卵箇所数）等の調査及びイワナの捕獲調査を実施し、DNA鑑定等を用いて福井県固有種のイワナ生息状況を明らかにし、今後の放流用種苗生産及び固有種の保護につなげる。</p>
活用する支援措置等	みんなでつくる川・湖資源総合活用事業（福井県補助事業）

### 3年目（平成30年度）

漁業収入向上のための取組	<p>① 養殖用種苗生産施設の活用</p> <p>勝山淡水漁業生産組合は、平成28年度に整備した養殖用種苗の生産施設（孵化場）において、以下の種苗生産を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アマゴ : 95,000尾（前年同数）</li> <li>・ヤマメ（サクラマス） : 19,000尾（前年比 5,000尾増）</li> <li>・ニジマス : 20,000尾（前年比10,000尾増）</li> <li>・イワナ : 48,000尾（前年同数）</li> </ul> <p>また、前年度より引き続き九頭竜川産ヤマメ（サクラマス）の生産量増大、ニジマス及びイワナの生産開始に向けて孵化技術、魚病被害対策等の新たな技術の導入を図り生育状況等を記録する。併せて、生育状況を鑑みて養殖・放流用種苗生産について九頭竜川産への移行を検討するとともに養殖用種苗の増産を行う。</p>
--------------	---

また、試行で生産された成魚について、食味・色・形・大きさ等従来品との比較調査を行う。

#### ② 河川での再生産増大への取組み

漁業者は、アユ、ヤマメ（サクラマス）等の産卵床として可能性のある河床を掻き起こし、はまり石から浮石とする産卵床を造成することによって円滑な再生産を促し、翌年度の天然アユ等の遡上増大及び産卵可能箇所を増大を図る。具体的箇所は河床礫石の状況を調査し実施する。

併せて、アユ、ヤマメ（サクラマス）等の遡上量等資源の増大に向けて魚道の整備、産卵間近の親魚放流などの他の施策についても連携することで相乗効果の発揮に努めるとともに、水産総合研究センター増養殖研究所、滋賀県水産試験場等から講師を招いての研修・講習会を実施し、魚の生態・保護方法等の知識を得る。

#### ③ 遊漁者の増大

漁協は、遊漁者を増やすための広報戦略の樹立とその実践により、アユ、ヤマメ（サクラマス）、イワナ釣り等釣りの楽しさ等を広くPRし、遊漁者の増加につなげるための検討を行う。

このため漁協は、マスコミに取材等を要請する中で、釣具メーカー等との共催で全国釣り大会を継続して開催し情報発信するとともに、その結果についてもメーカーの情報誌や漁協のホームページに掲載し、九頭竜川での釣りの楽しさや醍醐味を広く宣伝し、遊漁者の増大を図る。

また漁協は、これまでの広報のあり方、方向性の検討結果を分析し、改善を図る中で遊漁者の増大に向けたマーケティング調査、効果的PRのための戦略づくりを行う。

併せて、アユ釣り解禁前に漁業者や市民団体によるゴミ拾いや地域と連携したクリーン作戦等の漁場環境整備活動を各1回行い、イメージアップによる遊漁者数の増大・漁場環境向上による漁獲量の増加につなげる。

#### ④ 消費拡大

漁業者は、勝山市「道の駅」基本計画検討会議（事務局：勝山市）や勝山九頭竜環境ネットワーク等の民間事業者等と連携し、これまでの検討結果を踏まえ、アユ、ヤマメ（サクラマス）、イワナの生鮮販売・加工品開発等による販路拡大・6次産業化等を図ることにより収入向上につなげる。また、各種市民団体等と連携して、アユ、ヤマメ（サクラマス）、イワナを使った新メニューをそれぞれのホームページで紹介するとともに、料理教室・コンクール等を開催する。

	<p>また、勝山市主催のイベント等に出店し、九頭竜川産アユ等の美味しさをPRし、消費拡大、遊漁者の増大につなげる。さらに、飲食店、ホテル、旅館等についての販路拡大策の検討に着手する。併せて、平成32年度に開業予定である『道の駅』への直売所設置等による所得向上対策について民間事業者等と連携して施設整備等を含めた具体的な検討を引き続き行う。</p> <p>⑤ 担い手の育成  活力ある漁業を取り戻すためには、若い新規就業者の新たな着業が必要であることから、漁協等は、漁業の魅力を知ってもらうため、若年層及び女性を対象に釣り教室、稚魚放流体験及び魚との触れあい事業等を実施する。</p> <p>⑥ 集出荷・システムの検討  漁協は、漁獲物の安定的な供給を行うために、漁協が漁業者等からアユ等を買入れ、一元的に出荷する効率的な集荷・出荷システムの試行・検証を行う。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>① 養殖用種苗生産施設等によるコスト縮減  漁協は、ヤマメ（サクラマス）、イワナについて、勝山淡水漁業生産組合所有の養殖用種苗生産施設で生産された稚魚及び成魚を購入・放流することで、輸送コストの削減による漁業コスト削減を図る。</p> <p>② 養殖用種苗生産技術の研修・習得  養殖用種苗生産は、その技術レベルにより効率性・経済性が大きく左右される。このことから、勝山淡水漁業生産組合は、引き続き福井県内水面総合センターなどの実技研修等を受け、養殖用種苗生産技術のスキルアップを図り種苗生産の効率化及び確実性を高める。</p> <p>③ 放流可能量、福井県固有種イワナ等の調査  河川環境を無視した過剰な放流は、放流経費の増加を招くとともに河川環境の悪化をもたらすことから、漁協は、福井県内水面総合センター、福井県立大学、民間団体等と連携し、水棲昆虫棲息量や各魚種等の生息状況等の調査を実施し、適正な放流可能量の把握に努める。  併せて、ヤマメ（サクラマス）の産卵量（産卵箇所数）等の調査及びイワナの捕獲調査を実施し、DNA鑑定等を用いて福井県固有種のイワナ生息状況を明らかにし、今後の放流用種苗生産及び固有種の保護につなげる。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>農産漁村振興交付金  みんなでつくる川・湖資源総合活用事業（福井県補助事業）</p>

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>① 養殖用種苗生産施設の活用</p> <p>勝山淡水漁業生産組合は、平成28年度に整備した養殖用種苗の生産施設（孵化場）において、以下の種苗生産を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アマゴ : 90,000尾（前年比 5,000尾減）</li> <li>・ヤマメ（サクラマス） : 32,000尾（前年比13,000尾増）</li> <li>・ニジマス : 30,000尾（前年比10,000尾増）</li> <li>・イワナ : 48,000尾（前年同数）</li> </ul> <p>また、前年度より引き続き九頭竜川産ヤマメ（サクラマス）の生産量増大、ニジマス及びイワナを生産開始に向けて孵化技術、魚病被害対策等の新たな技術の導入を図り生育状況等を記録する。併せて、生育状況を鑑みて養殖・放流用種苗生産について九頭竜川産への移行を開始するとともに更なる増産を図る。</p> <p>また、試行で生産された成魚について、各種イベント等での販売及び従来品との差別化を図っての商品化等を行い漁業収入の向上につなげる。</p> <p>② 河川での再生産増大への取組み</p> <p>漁業者は、アユ、ヤマメ（サクラマス）等の産卵床として可能性のある河床を掻き起こし、はまり石から浮石とする産卵床を造成することによって円滑な再生産を促し、翌年度の天然アユ等の遡上増大及び産卵可能箇所を増大につなげることで、収入向上を図るよう検討を行う。具体的箇所は河床礫石の状況を調査し実施する。</p> <p>併せて、アユ、ヤマメ（サクラマス）等の遡上量等資源の増大に向けて魚道の整備、産卵間近の親魚放流などの他の施策についても連携することで相乗効果の発揮に努めるとともに、水産総合研究センター増養殖研究所、滋賀県水産試験場等から講師を招いての研修・講習会を実施し、魚の生態・保護方法等の知識を得る。</p> <p>③ 遊漁者の増大</p> <p>漁協は、遊漁者を増やすための広報戦略の樹立とその実践により、アユ、ヤマメ（サクラマス）、イワナ釣り等釣りの楽しさ等を広くPRし、遊漁者の増加につなげるための検討を行う。</p> <p>このため漁協は、マスコミに取材等を要請する中で、釣具メーカー等との共催で全国釣り大会を継続して開催し情報発信するとともに、その結果についてもメーカーの情報誌や漁協のホームページに掲載し、九頭竜川での釣りの楽しさや醍醐味を広く宣伝し、遊漁者の増大を図る。</p> <p>また漁協は、前年度に行った遊漁者の増大に向けたマーケティング調査結果</p>
---------------------	---

	<p>及び効果的PRのための戦略に基づいた広報を実施する。</p> <p>併せて、アユ釣り解禁前に漁業者や市民団体によるゴミ拾いや地域と連携したクリーン作戦等の漁場環境整備活動を各1回行い、イメージアップによる遊漁者数の増大・漁場環境向上による漁獲量の増加につなげる。</p> <p>④ 消費拡大</p> <p>漁業者は、勝山市「道の駅」基本計画検討会議（事務局：勝山市）や勝山九頭竜環境ネットワーク等の民間事業者等と連携し、これまでの検討結果を踏まえ、アユ、ヤマメ（サクラマス）、イワナの生鮮販売・加工品開発等による販路拡大・6次産業化等により引き続き収入向上につなげる。また、各種市民団体等と連携して、九頭竜川産のアユ、ヤマメ（サクラマス）、イワナを使った商品等を、福井県が企画開催しているデパートでの特産品フェアや東京にある福井県アンテナショップでの販売を行い、知名度を高め消費拡大を図る。さらに、平成32年度に開業予定である「道の駅」へ販売等に必要な施設整備を行う。これらの施設では、焼き魚や関連加工品の物販販売施設を設置するとともに、アユ、ヤマメ（サクラマス）、イワナ等の集荷窓口としての位置づけも併せ持つ施設とする。併せて、道の駅に隣接する九頭竜川において、親水施設整備を行い漁や魚の手づかみ体験等、家族連れや観光客が気軽に漁業を含む河川環境に触れあえるような場所とする。道の駅の飲食施設に対しては、九頭竜川流域の淡水魚を使った飲食メニューの提供を依頼し、消費拡大及び所得増大に向けた取組みを行う。</p> <p>⑤ 担い手の育成</p> <p>活力ある漁業を取り戻すためには、若い新規就業者の新たな着業が必要であることから、漁協等は、漁業の魅力を知ってもらうため、若年層及び女性を対象に釣り教室、稚魚放流体験及び魚との触れあい事業等を実施する。また、近隣の小中学校を対象に同様の事業を実施し、若年層が漁業への親しみや理解を得るようさらなる働きかけを行う。</p> <p>⑥ 集出荷・システムの検討</p> <p>漁協は、漁獲物の安定的な供給を行うために、漁協が漁業者等からアユ等を買入れ、一元的に出荷する効率的な集荷・出荷システムの収益性を更に向き上げるため、前年度の試行結果に基づき、問題点の洗い出しを行い、システムの改善を図るとともに、平成32年度からの本格稼働に向けた検証を実施する。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>① 養殖用種苗生産施設等によるコスト削減</p> <p>漁協は、ヤマメ（サクラマス）、イワナについて、勝山淡水漁業生産組合所有の養殖用種苗生産施設で生産された九頭竜川産の稚魚及び成魚を購</p>

	<p>入・放流することで、輸送コストの削減及び生残率の向上による漁業コスト削減を図る。</p> <p>② 養殖用種苗生産技術の研修・習得</p> <p>養殖用種苗生産は、その技術レベルにより効率性・経済性が大きく左右される。このことから、勝山淡水漁業生産組合は、引き続き福井県内水面総合センターなどの実技研修等を受け、養殖用種苗生産技術のスキルアップを図り種苗生産の効率化及び確実性を高める。</p> <p>③ 放流可能量、福井県固有種イワナ等の調査</p> <p>河川環境を無視した過剰な放流は、放流経費の増加を招くとともに河川環境の悪化をもたらすことから、漁協は、福井県内水面総合センター、福井県立大学、民間団体等と連携し、水棲昆虫棲息量や各魚種等の生息状況等の調査を実施し、適正な放流可能量の把握に努める。</p> <p>併せて、ヤマメ（サクラマス）の産卵量（産卵箇所数）等の調査及びイワナの捕獲調査を実施し、DNA鑑定等を用いて福井県固有種のイワナ生息状況を明らかにし、今後の放流用種苗生産及び固有種の保護につなげる。</p> <p>また、これまでの調査結果をもとに今後の調査内容等についての検討を行うとともに九頭竜川への各魚種の放流量について検討を行う。</p>
活用する支援措置等	農産漁村振興交付金

5年目（平成32年度）

漁業収入向上のための取組	<p>① 養殖用種苗生産施設の活用</p> <p>勝山淡水漁業生産組合は、平成28年度に整備した養殖用種苗の生産施設（孵化場）において、以下の種苗生産を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アマゴ : 90,000尾（前年同数）</li> <li>・ヤマメ（サクラマス） : 42,000尾（前年比10,000尾増）</li> <li>・ニジマス : 32,000尾（前年比2,000尾増）</li> <li>・イワナ : 48,000尾（前年同数）</li> </ul> <p>また、前年度より引き続き九頭竜川産ヤマメ（サクラマス）の生産量増大、ニジマス及びイワナの生産開始に向けて孵化技術、魚病被害対策等の新たな技術の導入を図り生育状況等を記録する。併せて、生育状況を含めて養殖・放流用種苗生産について九頭竜川産への移行を継続して実施するとともに生産された成魚について、各種イベント等での販売及び従来品との差別化を図っての商品化等を行い漁業収入の向上につなげるとともに更なる増産を図る。</p>
--------------	--

② 河川での再生産増大への取組み

漁業者は、アユ、ヤマメ（サクラマス）等の産卵床として可能性のある河床を掻き起こし、はまり石から浮石とする産卵床を造成することによって円滑な再生産を促し、翌年度の天然アユ等の遡上増大及び産卵可能箇所を増大を図る。具体的箇所は河床礫石の状況を調査し実施する。

併せて、アユ、ヤマメ（サクラマス）等の遡上量等資源の増大に向けて魚道の整備、産卵間近の親魚放流などの他の施策についても連携することで相乗効果の発揮に努めるとともに、水産総合研究センター増養殖研究所、滋賀県水産試験場等から講師を招いての研修・講習会を実施し、魚の生態・保護方法等の知識を得る。

③ 遊漁者の増大

漁協は、遊漁者を増やすための広報戦略の樹立とその実践により、アユ、ヤマメ（サクラマス）、イワナ釣り等釣りの楽しさ等を広くPRし、遊漁者の増加につなげるための検討を行う。

このため漁協は、マスコミに取材等を要請する中で、釣具メーカー等との共催で全国釣り大会を継続して開催し情報発信するとともに、その結果についてもメーカーの情報誌や漁協のホームページに掲載し、九頭竜川での釣りの楽しさや醍醐味を広く宣伝し、遊漁者の増大を図る。

また漁協は、引き続き漁者の増大に向けたマーケティング調査結果及び効果的PRのための戦略に基づいた広報を実施する。

併せて、アユ釣り解禁前に漁業者や市民団体によるゴミ拾いや地域と連携したクリーン作戦等の漁場環境整備活動を各1回行い、イメージアップによる遊漁者数の増大・漁場環境向上による漁獲量の増加につなげる。

④ 消費拡大

漁業者は、勝山市「道の駅」基本計画検討会議（事務局：勝山市）や勝山九頭竜環境ネットワーク等の民間事業者等と連携し、これまでの検討結果を踏まえ、アユ、ヤマメ（サクラマス）、イワナの生鮮販売・加工品開発等による販路拡大・6次産業化等により引き続き収入向上につなげる。また、各種市民団体等と連携して、九頭竜川産のアユ、ヤマメ（サクラマス）、イワナを使った商品等を、福井県が企画開催しているデパートでの特産品フェアや東京にある福井県アンテナショップでの販売、また地元勝山市の情報発信拠点で紹介し、知名度を高め消費拡大を図るとともに道の駅等へ整備した施設での販売又は九頭竜川産アユ等の直接販売を通じて漁業所得の向上を図る。

⑤ 担い手の育成

	<p>活力ある漁業を取り戻すためには、若い新規就業者の新たな着業が必要であることから、漁協等は、漁業の魅力を知ってもらうため、若年層及び女性を対象に釣り教室、稚魚放流体験及び魚との触れあい事業等を実施する。また、近隣の小中学校に対しても同様の働きかけを行い、若年層が漁業への親しみや理解を得るよう働きかけを行う。</p> <p>⑥ 集出荷・システムの検討</p> <p>漁協は、前年度までに検証を行った集荷・出荷システムによるアユ、ヤマメ（サクラマス）、イワナの道の駅における集荷及び拡大した販売先への本格的な出荷を行う。また、これまで同様にその内容等の検証作業を実施し、より効率的な集荷・出荷システムとなるよう改善に努める。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>① 養殖用種苗生産施設等によるコスト縮減</p> <p>漁協は、より生残率の高い海産アユへの移行を進めることで、漁獲高の向上及び放流量の維持又は削減等によるコスト縮減を図る。また、ヤマメ（サクラマス）、イワナについては、勝山淡水漁業生産組合所有の養殖用種苗生産施設で生産された九頭竜川産の稚魚及び成魚を購入・放流することで、輸送コストの削減及び生残率の向上による漁業コスト削減を図る。</p> <p>② 養殖用種苗生産技術の研修・習得</p> <p>養殖用種苗生産は、その技術レベルにより効率性・経済性が大きく左右される。このことから、勝山淡水漁業生産組合は、引き続き福井県内水面総合センターなどの実技研修等を受け、養殖用種苗生産技術のスキルアップを図り種苗生産の効率化及び確実性を高める。</p> <p>③ 放流可能量、福井県固有種イワナ等の調査</p> <p>河川環境を無視した過剰な放流は、放流経費の増加を招くとともに河川環境の悪化をもたらすことから、漁協は、福井県内水面総合センター、福井県立大学、民間団体等と連携し、水棲昆虫棲息量や各魚種等の生息状況等の調査を実施し、適正な放流可能量の把握に努める。</p> <p>併せて、ヤマメ（サクラマス）の産卵量（産卵箇所数）等の調査及びイワナの捕獲調査を実施し、DNA鑑定等を用いて福井県固有種のイワナ生息状況を明らかにし、今後の放流用種苗生産及び固有種の保護につなげる。</p> <p>また、これまでの調査結果をもとに今後の調査内容等についての検討を行うとともに九頭竜川への各魚種の放流量について引き続き検討を行う。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	



※プランの実施期間が6年以上となる場合、記載欄は適宜増やすこと。

※「活用する支援措置等」欄に記載するのは国の支援措置に限らない。

(4) 関連機関との連携

九頭竜川流域の勝山市では、市外からのより一層の観光客誘致及び市内の内水面漁業を含む産業振興のために、中部縦貫道路インターチェンジ付近の勝山市荒土町松ヶ崎地区に「道の駅」を整備してより市内産業の活性化を図ろうと、平成27年12月以降に漁協を始め、市内の商工会、農協、観光協会等の各種団体を含む勝山市「道の駅」基本計画検討会議を発足する。この中で、九頭竜川のアユ、ヤマメ（サクラマス）、イワナ等についても地域の特産品として取り扱うとともに内水面漁業に関する直接販売施設設置等も併せて検討することとなっている。このため、勝山市「道の駅」基本計画検討会議と連携し、九頭竜川産のアユ、ヤマメ（サクラマス）、イワナとしてブランド力を高め販路拡大に努めていくこととしている。

その他「勝山商工会議所」等の市民団体との連携、学校との連携など緩やかな幅広い連携、各種イベントへの共催によって、日増しに高まりつつある九頭竜川の魅力、九頭竜川産アユ、ヤマメ（サクラマス）、イワナの稚魚、成魚及び養殖魚の出荷増など、九頭竜川水産業の活力を再生し、地域発展に寄与していく。また、福井県内水面総合センター及び福井県立大学等との連携を通じ、養殖用種苗生産技術の修得・向上・確立に努める。

各種釣り具メーカーとは、九頭竜川における全国アユ釣り大会の実施を通じて連携を深めより一層の水産資源のPRを図る。

また、勝山九頭竜環境ネットワーク等と共により良い河川環境づくり、天然資源の増加を目指して連携を行っていくとともに、アユ、ヤマメ（サクラマス）、イワナの生鮮販売・加工品販売等についても連携を図る。

4 目標

(1) 数値目標

漁業所得の向上 10%以上	基準年	平成 年度：漁業所得 千円
	目標年	平成 年度：漁業所得 千円

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

※算出の根拠及びその方法について詳細に記載し、必要があれば資料を添付すること。

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
-----	----------------------

水産業競争力強化緊急施設整備事業	養殖用種苗生産施設を整備し、九頭竜川産の稚魚・成魚放流による地先資源の増大を図るとともに、輸送コスト及び生残率の向上による漁業コストの削減につなげる。
農山漁村振興交付金	平成32年に開業予定の『道の駅』において、漁獲物の提供等を通じて、水産業の振興を中心とした地域の活性化を図ることを目的とした加工作業所、地域水産物普及施設（加工品や郷土料理の展示及び販売提供等）の整備を行うことで、漁獲物の消費拡大を図り、漁業所得の向上につなげる。

※具体的な事業名が記載できない場合は、「事業名」は「未定」とし、「事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性」のみ記載する。

※本欄の記載により、関連施策の実施を確約するものではない。